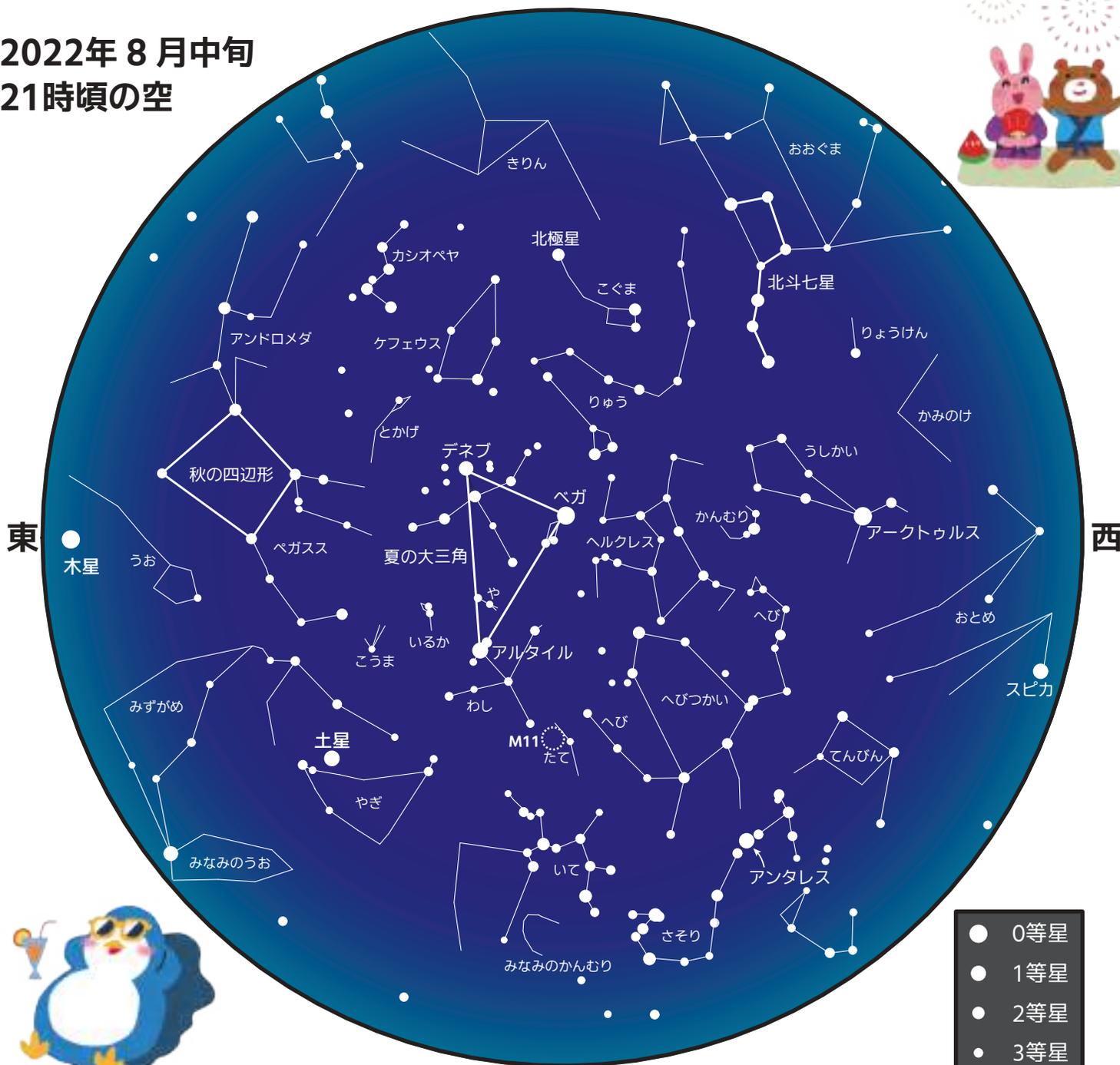


阿南市科学センター 8月の星空案内

北

2022年8月中旬
21時頃の空



暑い日々が続く、夏本番の季節となりました。この時期によく知られている星並びというと夏の大きな三角が挙げられます。かつて観察をしたという方や、今まさに夏休みの宿題として観察をしようとしている方もいらっしゃるかもしれません。その夏の大きな三角は、21時頃、頭の真上近くの明るい星を3つ結ぶと見つけることができます。最も明るい星がベガ（こと座）、次に明るい星がアルタイル（わし座）、そして残りの1つがデネブ（はくちょう座）です。よく晴れている日に空の暗いところで夏の大きな三角を見ると、ぼんやりとした白っぽいものも見えることがあります。一見雲のようにも思えますが、これが七夕伝説にも出てくる天の川です。天の川を見るには月明かりのない日がおすすめで、今月なら下弦となる下旬以降が良いでしょう。さて、8月4日は旧暦の七夕（伝統的七夕）にあたります。織姫、彦星と合わせて、旧暦の七夕も楽しんでみてはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 8月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
5日



満月
12日



下弦
19日



新月
27日

8月の天体観望会で月が見える日時は？



8/6(土) 20時・21時の回がお勧め



8/13(土) 21時の回終盤に可能

水星：月末頃、日没後西のごく低空に見える。【約0.3等】

金星：夜明け前、東の低空に見える。【約-3.9等】

火星：深夜に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約0.1等】

木星：夜遅くに東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約-2.8等】

土星：一晩中見ることができる。【約0.3等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ下旬の明るさ。



観望会で土星を見るには
下旬以降の21時の回が
おすすめです★



■ 天文現象と見ごろの天体

★ペルセウス座流星群がピーク

3大流星群の1つである、ペルセウス座流星群が13日にピークを迎えます。流れ星を見るには、

- ①自分の目で見る（双眼鏡・望遠鏡は必要ありません）
- ②空を広く見渡す（ペルセウス座以外の方向にも流れます）
- ③月のない方向を見る
- ④暗さに目を慣らす（15分くらいで暗さに慣れます）

この4つがポイントとなります。今年は12日が満月にあたり、月明かりの影響を受けますが、1時間に30個ほど見られるという予想も出ています。見る方向を変えるなど、月の明かりを避けて観察しましょう。今年はピークが昼間にあたるので8月12日の22時ごろから13日の未明にかけてがお勧めです。お盆直前の金曜日ということで、比較的空を眺めやすい日取りかもしれません。夏の思い出に流れ星探しをしてみたいはいかがでしょうか。

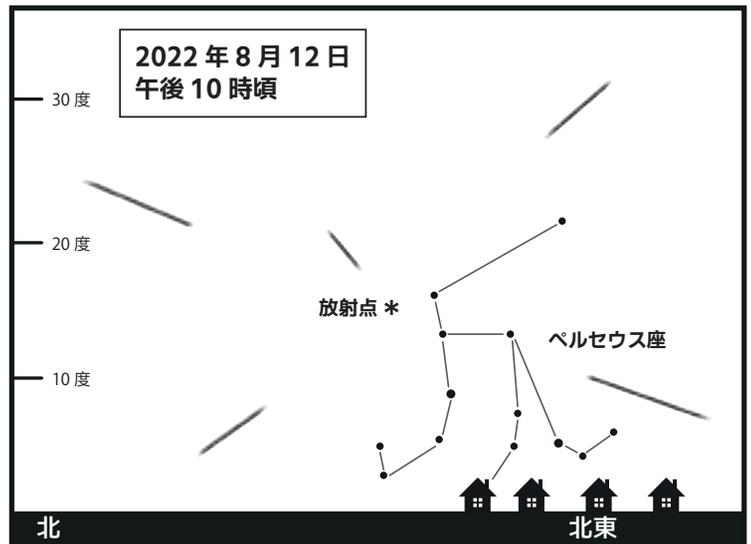


図1 . ペルセウス座と流星群の放射点



写真1 . 113cm 望遠鏡にて撮影した M11 (A.Suzuki)

★散開星団 M11 (たて座)

たて座には M11 という星団があります。星団には星がばらばらと集まっているように見える散開星団と、星がボール状に集まっているように見える球状星団の2つの種類があります。このうち M11 は散開星団にあたります。左手の写真では多くの星が集まっているようにも見えますが、M11 は散開星団の中では星の密集度が高いグループに分類されています。

ところで、M11 を科学センターの113cm 望遠鏡で見ると、望遠鏡の視野いっぱい、宝石のような星たちがいくつも見え、とても見ごたえがあります。「見えているものすべて星なのですか。すごい……」という声が聞かれるほど、観望会に参加してくださった方からも人気がある天体の一つです。